

相談員 杉澤 琴美

名寄まつりが終わり、朝晩が涼しくなってきましたね。渦中にいるとつらいけれど、過ぎ去ってみれば短い夏。寂しいような、ホッとしたような。今号では、暑さ厳しい7月の活動をご紹介します。

七夕の願いごと



7月の1週目は、毎年恒例となりました七夕飾りを作ります。あうんでは造花の笹の枝を使用しているのですが、利用者さんはこれをみると大抵、「柳の木」と呼びます。北海道では笹と言えば熊笹。七夕と言えば柳の木なのですね。

用意した短冊は、風習に則って赤・青・黄・白・黒（紫）の五色。好きな色を選んでいただいて、さて、何を願おうかと思いを巡らします。せっかくお星さまにお願いするのだから、夢は大きく何でもOK！とお話しして臨んでいただいたのですが、最も多かったのはご自身とご家族の健康を願うもの。ささやかですが本当に大切なことですよね。家族に負担をかけずに元気で暮らしたいとの願いが強く感じられました。

利用者さんの多くが、目が見えにくかったり手指のこわばりがあったりして文字を書くことを躊躇なさいます。そのため、例年は職員が代筆することが多かったのですが、今年は何人もの方が自筆で書いてくださいました。何年ものお付き合いでありながら自筆で文字を書いていただいたことがなかったので、こんなに達筆でいらしたんですね！と、新しい一面を見れたことも我々スタッフにとってはとても良い体験でした。

七夕の翌日、7月8日の夕方にあうんの庭で短冊をお焚き上げしました。遠い空を突き抜けて、皆さんの願いが天まで届きますように。



七夕飾り

仙台の七夕まつりで有名な「吹き流し」という七夕飾り。丸い球体の下に、色とりどりの細い垂れ幕が風になびく姿がとても華やかできれいですよね。知っているけど身近ではないこの七夕飾りを是非作ってみたい！と、突然の思い付きで制作に取り組んでみました。

お花紙で小さなお花をたくさん作り、球体に貼り付けていきます。4月に桜を制作しているのでお花紙の扱いは皆さん経験済み。貼り付けていくにつれて、まるで花嫁さんのブーケのよう。これは大作の予感！！

華やかにお花玉ができれば、垂れ幕を貼った輪っかを取り付けて完成。さっそく天井に吊るしてお披露目しました。きれいだねえ！と皆さん喜んでくださっていましたが、飾ってみるとなんだか物足りないような。本家・仙台の吹き流しで思い浮かぶのは、色とりどりたくさん並んでいる姿。今年の七夕はもう過ぎ去ってしまったので、来年・再来年とひとつずつ増やして行けると良いですね！



日々の食卓より



7月はあうん畑の収穫期！！朝採れた野菜をその日のお昼に食卓へ。毎回の食事のたびに、〇〇と〇〇は畑で採れた野菜ですよ！と欠かさず毎回アピールしています。この日の昼食は、お肉と調味料以外は全てあうん産。食料自給率が上がると調理するスタッフの達成感も劇的に上がります。

特に収穫量が多いのはキュウリとズッキーニ。飽きないように、かぶらないように、毎日知恵を絞ってお料理に励んでいます！

豚肉と大根の味噌炒め、ズッキーニの天ぷら、居酒屋きゅうりインゲンの素揚げ、ご飯、味噌汁



こぼれ話

七夕飾りの一場面。スタッフが書いた「運動（ダイエット）の成果が欲しい」と書いた短冊を見て、利用者さんが一言。「これから若くなるわけではないから、良くなるというよりも、現状維持でいいことにしないとね」…なんと重みのある言葉！！中年のスタッフの胸にズキューンと刺さりました。

何かの決断に迫られて悩んでいる時など、実は知らず知らず心の中では結論は出ていて、新聞の広告や本の一節など、関係のない場面に突然答えを見つけることがありますよね。今回も、スタッフの悩み（と言うにはおこがましいのですが…）の答えは利用者さんの言葉の中にありました。腰や膝の痛みを抱えながら暮らしてらっしゃる方。この言葉は、この方がいつも心掛けていることなのでしょう。